

あきる野市民文化ホールの指定管理者について（指定理由書）

1 審査対象団体

秋川キララホール運営共同事業体（以下「共同事業体」という。）

2 現指定管理者に引き続き行わせる理由

あきる野市公の施設に係る指定管理者の指定手続き等に関する条例第2条第1項第2号の規定に基づき、現指定管理者に管理を引き続き行わせる理由については、次のとおりである。

秋川キララホールは、市民文化の向上を図ることを目的に設置している文化ホール施設であり、平成25年度から指定管理者制度を導入し、共同事業体が管理している。この間、施設の管理運営に係る改善等に取り組み、利用者の利便性の向上及び経費の節減が図られ、指定管理者としての実績は評価できる。

また、「強い発信・求心力を持つ施設として、文化の香り高く、賑わいのあふれるホールへ」を基本方針とし、スタッフが市民と協働しながら各種の施策を推進し、市の文化振興に貢献している。

(1) 協定書、事業計画等に沿って適正に指定管理業務を行っていることについて

協定書、提案書にあった事業計画書に沿って適正に指定管理業務を行っており、モニタリング評価も「A」としている。

(2) 施設の利用状況が改善されている又は良好な状態であることについて

平成25年度から施設利用者と事業に関するアンケートを実施している。

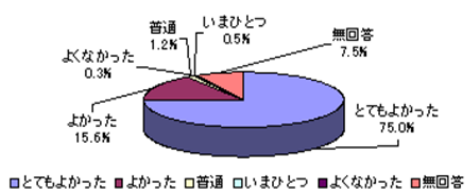
主催・自主事業等に来場した方へのアンケート調査では、コンサート全体の感想として「とてもよかった」「よかった」を合わせると、毎年90%近い数値を得ており、スタッフの対応については、「不満」「とても不満足」を合わせても1%台。未回答（白紙を含む）を除くと80%以上が「満足」「とても満足」と評価しており、質の高い来館者サービスが提供できていることが伺える。

主催・自主事業等への来場者へのアンケート

①コンサート全体の感想

感想	H25年度	H26年度	H27年度	合計	比率
とてもよかった	1273	1398	1906	4577	75.0%
よかった	230	306	415	951	15.6%
普通	22	27	24	73	1.2%
いまひとつ	13	5	10	28	0.5%
よくなかった	2	2	12	16	0.3%
無回答	112	136	213	461	7.5%
計	1652	1874	2580	6106	100.0%

H25～27年度の来場者のコンサート全体の感想

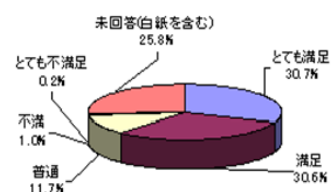


②スタッフの対応について

感想	H25年度	H26年度	H27年度	合計	比率
とても満足	-	543	809	1352	30.7%
満足	-	562	786	1348	30.6%
普通	-	184	329	513	11.7%
不満	-	11	33	44	1.0%
とても不満足	-	2	8	10	0.2%
未回答(白紙を含む)	-	521	615	1136	25.8%
合計	-	1823	2580	4403	100.0%

H25年度とH26年度8月30日のヨレイヂはアンケートに質問項目がなかったため回答対象外です。

H25～27年度のスタッフ対応について



また、ホール利用者へのアンケートでは、過去3年間で悪い評価は一度もなく、特に舞台スタッフの対応については、「良かった」以上の好評価が100%を占めている。

ホール利用者の感想

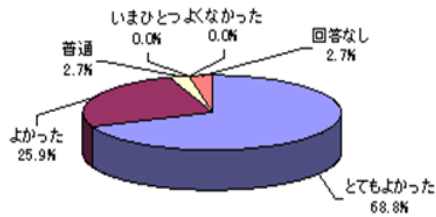
項目	H25年度	H26年度	H27年度	合計	比率
とてもよかった	11	36	30	77	68.8%
よかった	2	21	6	29	25.9%
普通	0	1	2	3	2.7%
いまひとつ	0	0	0	0	0.0%
よくなかった	0	0	0	0	0.0%
回答なし	0	2	1	3	2.7%
計	13	60	39	112	100.0%

ホールご利用時の舞台スタッフの対応はいかがでしたか

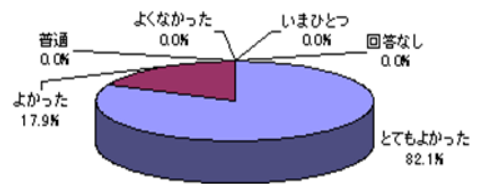
項目	H25年度	H26年度	H27年度	合計	比率
とてもよかった	-	-	32	32	82.1%
よかった	-	-	7	7	17.9%
普通	-	-	0	0	0.0%
いまひとつ	-	-	0	0	0.0%
よくなかった	-	-	0	0	0.0%
回答なし	-	-	0	0	0.0%
計	-	-	39	39	100.0%

H25年度、H26年度は質問項目がないためH27年度のみを集計です。

H25～27年度のホール利用者の感想



ホールご利用時の舞台スタッフの対応



項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用者（来客者）数（人）	63,258	71,513	75,007	68,551

(3) 収支計画書に基づく予算執行が適正になされており、施設の収支状況が良好な状態であることについて

下記の表にあるように、利用料の収入も予算から見た達成率が安定している。平成27年度においては市政20周年記念事業や全国地芝居サミットの開催により、ホール利用料収入、事業収入、最終損益、稼働率、入場者数のいずれの項目においても指定管理導入以来の最高値を記録した。

平成28年度はやや減少しているが、これは140万円以上の収入が見込まれるあきる野映画祭が、平成27年度より秋川キララホールで行われなくなったためである。また、平成26年度はガスヒートポンプエアコン交換修繕のため、7月28日から9月10日までの間休館した影響がある。

最終損益については、指定管理導入初年度は285万ほどマイナスでスタートしたが、その後は順調に利益を上げている。

項目		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平均
収入	指定管理料	68,348	68,571	68,930	69,126	68,744
	使用料収入 (売上)	20,964	19,165	22,256	18,937	20,331
	主催事業収入	9,276	7,515	13,269	11,953	10,503
	自主事業等収入	8,069	9,904	10,110	10,333	9,604
	共催事業収入	341	-	-	3,309	
	その他の収入	1,592	2,344	3,065	2,502	2,376
	計	108,590	107,500	117,630	116,160	112,470
支出	人件費	37,753	33,688	33,390	34,808	34,910
	施設維持管理費	29,685	28,674	27,517	25,755	27,908
	運営管理費 (主催事業費を含む)	30,299	30,050	28,859	29,920	29,782
	自主事業関係費	13,711	14,514	15,250	16,684	15,040
	その他の支出	-	-	-	-	
	計	111,449	106,927	105,016	107,167	107,640
収支(収入-支出)		△ 2,859	573	12,615	8,993	4,831

#### (4) 秋川キララホール運営共同事業体の新たな取組

若い世代と年配の方々の交流の場となることを目指し、幅広い年代が参加できる新たな育成事業として、キララホール合唱団を設立。平成 25 年度に第 1 回演奏会を実施した。平成 26 年度には第 2 回演奏会、平成 27 年度にはフレッシュ名曲コンサートにおいて、西本智実氏指揮、日本フィルハーモニー交響楽団とキララ合唱団の共演による「第九」を開催、平成 28 年度には第 4 回演奏会を実施した。平成 29 年度は東京交響楽団、レジデンシャルアーティストの橋本夏季氏と共演する「モーツァルトレクイエム」の開催を予定している。

また、秋川キララホール主催・自主事業や貸館事業のコンサート等を、市民の皆様が聴衆として支える会員組織として「秋川キララホール キララ友の会」を作り、平成 25 年 456 人、平成 26 年 664 人、平成 27 年 752 人、平成 28 年 776 人と順調に人数を伸ばしている。

#### (5) 地域に根差した事業

##### ア 出張コンサートの取組

平成 25 年度には、オペラ歌手によるワークショップとして秋川文化幼稚園と増戸中学校吹奏楽部へのアウトリーチを行い、さらに川畠成道ヴァイオリンアウトリーチとして、五日市保育園と特別養護老人ホーム「福楽園」での出張コンサートを行った。平成 26 年度には、横坂源チェロワークショップとして五日市保育園にて保育園の先生のピアノ伴奏に合わせて童謡のコンサートを行ったほか、ヨルイチに合わせて、中村そのみヴァイオリンミニコンサートを五日市郷土館内旧市倉家住宅で行った。平成 27 年度には、ふれあいトリオワークショップとして、ヴァイオリン、チェロ、ピアノの 3 人で前田小学校と屋城小学校に出張し、ヴァイオリンに初めて触れたり、音楽に合わせてリズムを刻むなど、参加児童と一緒に楽しい音楽のひと時を過ごした。

#### イ レジデンシャルアーティスト制度の立ち上げ

平成 27 年度に、秋川キララホールを練習・発表の拠点とし、将来的には秋川キララホールを本拠地として活動する地元ソリストを育成していくレジデンシャルアーティスト制度を立ち上げた。同年 7 月に開催したお披露目コンサートをはじめ、ヨルイチの五日市郷土館旧市倉家住宅でのピアノとフルートのコンサートを実施。また、老人福祉施設あすなるみんなの家とあすなる保育園において、アウトリーチコンサートを行った。

#### ウ 身近なホールづくりの取組

市民が舞台の上で秋川キララホールが誇るスタインウェイを気軽に体験できる「スタインウェイを弾きませんか♪」を企画。親子での参加や、奥様にピアノの演奏をプレゼントされる男性など市民の多岐にわたるニーズに応え、身近なホールづくりの取組として定着している。

#### エ まちづくり推進事業の取組

まちづくり推進事業の一環として、平成 25 年度はキララ合唱団の活動の促進も兼ね、市民無料招待のトワイライトコンサートを開催。平成 26 年度は横坂源氏を招き、ワンコインで楽しめるチェロとピアノによるコンサートを開催。翌 27 年度はレジデンシャルアーティスト、ソプラノの橋本夏季氏とピアノの関裕子氏によるスプリングコンサートを実施。平成 28 年度にはNHK交響楽団の首席トランペット奏者である、菊本和昭氏によるワンコインコンサートを行っている。

毎年実施している五日市寄席では、五日市出張所のまほろばホールや五日市会館を利用したアウトリーチ出張寄席を行い、満席になるほどの好評を得ている。

#### オ 共同・連携の取組

「家庭の日」推進事業を特定非営利活動法人子どもと文化NPO子ども劇場西多摩と協働で開催したほか、あきる野市若き音楽家フェスタは市民応募企画として、NPO法人市民プロジェクト21との協働で行っているほか、あきる野市吹奏楽団（キララバンド）と協働して実施している「エントランスコンサート」では、クラシックの敷居を下げる取組として、平成 25 年度から毎年 5 回実施。毎回 80 名以上の来館があり、地域に定着した市民の憩いの場ともなっている。

また、同指定管理者が運営しているあきる野ルピアにおいて、平成 26 年度より市民無料招待のコンサートを共催し、地域と連携しながら両館のプレゼンスを高めている。

#### (6) 指定管理者となっている団体の経営状況等から、安定的かつ継続的なサービスの提供が認められることについて

共同事業体は、幅広い市民が自ら提供者となり音楽に携わる「キララ合唱団」や、市民が気軽に楽しめる「エントランスコンサート」等の事業を、指定管理者となった平成 25 年度から現在まで継続して実施しており、市内の音楽文化の創出に貢献している。また、地元根差したアウトリーチ公演等を行うことで、地元との交流を広げ、

レジデンシャル・アーティスト制度では、キララホールが市内のアーティストを育てるという試みを実施し、市内の音楽文化の礎を築くという成果を挙げている。

これらの事業の実施が、安定した収支状況を生む基礎となり、また市民の施設利用の促進に大きな実績を上げており、安定した収支状況と施設利用者数が認められる。

よって、引き続き管理を行うことにより、安定した行政サービスの提供と事業効果が期待できるため、共同事業体を秋川キララホールの指定管理者とする。